

あびこの文化

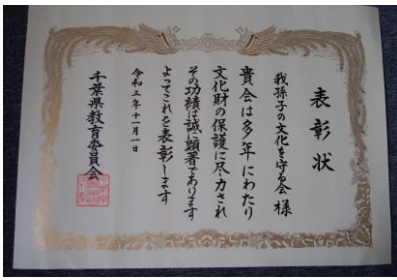
発行人
美崎 大洋
我孫子市
高野山
250-23
04(7182)
0861

千葉県教育功労者表彰

千葉県教育委員会規定に基づき、我孫子の文化を守る会が令和3年度教育功労者として表彰されました。

千葉県教育功労者表彰は、昭和23年11月1日の千葉県教育委員会設置を記念して、昭和25年から、教育行政・学校保健・芸術文化・社会教育・学校教育の5分野について、永年にわたり本県の教育・文化の発展に寄与した個人及び団体の功績を称え実施しています。なお、今年度で72回目になります。

当会が表彰された「芸術文化」分野の説明には「芸術文化の普及振興文化財の保護研究地域文化の振興に寄与した者」と定義されており、個人の部で7名、団体の部で3団体となっています。因みに団体の部では当会の他に多古町文化協会、上高根敬愛講社が選ばれました。それぞれの個人、団体について「功績概要」が明示されており、当会の概要には次のように記されています。



「我孫子の文化を守る会」は、我孫子の自然と文化遺産を守り新しい文化の発展に資することを目的に、昭和55年7月に発足した。以来、我孫子市内の文化財の保存や顕彰にかかる活動が続け、現在、100名ほどの会員が在籍している。主な活動は、年6回の会報の発行を行うほか、

からの寄附を募って「嘉納治五郎先生の像（朝倉文夫作）を嘉納治五郎別荘跡に建立した。こうした長年にわたる活動により、本県の文化財の保護に寄与した功績は大である。」

11月1日 ホテルポートプラザ
ちばに於いて上記についての表彰式が行われ、当会から代表として村上智雅子副会長が出席した。

千葉県教育委員長は熊谷知事の肝りで登用された富塚昌子氏で、初めての女性教育長といえます。

富塚教育長は「日頃地域の教育と文化のために尽力をなされておられる皆様に感謝しこれを表彰し、千葉県の教育と文化の益々の発展を祈念します」という主旨の挨拶されました。



10月25日以降の感染拡大防止への協力をお願い

令和3年10月22日 市長 星野 順一郎

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐために、感染対策の徹底にご協力いただいている市民の皆様、また、営業時間の短縮や酒類提供の制限等、長い期間に渡りご協力をいただいている飲食店の皆様、そして、新型コロナウイルスの接種や患者の治療にあたっている医療従事者の皆様に、心から感謝申し上げます。

10月20日、千葉県は新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催し、飲食店の営業時間短縮や酒類の提供、人数制限を10月25日から解除することを発表しました。飲食店の制限は全面解除となりますが、全てが元通りではなく、基本的な感染対策の徹底が前提となっています。

秋の気配が高まり、気温の低下と乾燥が進むにつれて、インフルエンザが流行する季節が近づきつつあります。昨年はインフルエンザが流行しなかったことから、

インフルエンザに対する集団免疫がなく、今年は流行する可能性があると言われています。

新型コロナウイルスを2回接種した方も感染が確認されていることから、インフルエンザとの同時流行を防ぐためにも、市民の皆様には引き続き、マスクの着用や手洗いをはじめとした基本的な感染対策を行い、健康管理の徹底をお願いします。

新型コロナウイルス接種については、10月19日時点で12歳以上の方の81%が2回目を接種しています。接種も順調に進み、随時予約枠を更新しています。

3回目のワクチン接種についても、国からの供給量が決まり次第、広報あびこや市ホームページで市民の皆様へお知らせしていきます。（我孫子市ホームページより）

坂上弘氏追悼

坂上氏の逝去に思うこと

三谷 和夫

坂上弘氏が亡くなった。仲間で氏のことを少し書こうと話した。氏が『ある秋の出来事』で中央公論社の賞を受けたが、私はあまり良い文章とは思わず、むしろ講談社の『田園風景』に書いた「あとがき」の方がわかりやすく良い文章だと思う。

その「あとがき」に曰く、「住まいが利根川から遠くないので気が向くと河川敷の土手まで散歩に行く。数キロにおよぶこの土手は、春夏秋冬、とにかく季節感に溢れるところである。どんな風が吹いているか、どんな草が生えているか、どんな虫が鳴いているかは、行ってみるまでわからない。そして、それから何を感じ、行ってみるまでわからない。こうして土手に行く途中で、よく忘れかけていた小説の一場面が思い浮かぶ。自分が若いころ読んで感動を覚えた自然描写が、それだけのものではなかったことに気が付く。例えば、志賀直哉の『城崎にて』の一個人にとっても小生物にとっても、死とは思ってもかけないことがおこるのだ、

というようなところを強烈な実感とともに思い出したりする。この坂上氏の『田園風景』の「あとがき」は中々良い文章だと思う。

さて私は私のことを書きたい。私も坂上氏と同じ利根川のほとりに住んで四十年になる。私は伊勢で農家の長男に生まれた。申し訳ない思いで九十年を生きた。農家の長男は家を継ぐのが普通だが、私は農を継がずに来た。弟が後を継いで今も生家は農が続いている。元禄以来もう三百年になる。父も母も農を継いで来たのだ。私も若いころは夏に冷たい山よりの田で、蛭に吸われて血も出したし、汗を流して田の草も取った。母は実によく働いたから、今も感謝している。利根川のほとりで私は農から離れた。母には申し訳ない思いでいっぱいであり、絶えず思い続けたが、罰もまだ当たっていない。少しはつぐないをすべく今も努めている。夏は暑いががまん範囲だ。申し訳ない思いで過ごしてきた。

さてここで私は手賀沼に感謝せねばならぬ。九十年以上病氣一つせずに生きたのは手賀沼のお蔭と言わねばならぬ。先ずこの地はマラソンの適地ということだ。ハーフマラソンを一度だけ走った。四千人走って三千番私の記録はちょうど二時間。新春マラソンで五千メートルまたは一万メートル、冬には雪の中を走った。仕事に行く前に走った。筑波山は毎年誕生日すぎに九十歳まで登ったので、その足慣らしとして手賀沼つべりを歩いた。沼つべりを歩くのは快適であり、歳をとってからは歩くのに丁度よい。私は短歌をたしなむので歩きながらの短歌づくりもまた好適である。手賀沼は静かで、風光も中々によい。東京近くでこんな良い所は珍しいと私は思う。(2021. 11. 1)

我孫子で敬愛された坂上先生

村上 智雅子

作家坂上弘は、我孫子の文学愛好家の方々から「坂上さん」、「坂上先生」と呼ばれて永い間慕われて来ました。坂上先生は、我孫子の町を良く歩いておられま

した。手賀沼遊歩道でも、街中でも、利根川べりでも、電車の中でさえもお目にかかるいつも親しみやすい眼差しで気さくにお話し下さいました。或る時はエスパ・ショッピングセンターで買物袋を下げながら、「妻が毛糸を買って来いというので」と少し恥ずかしげにおつしやつた姿は微笑ましく、ふと志賀直哉を思い出ししたりしました。志賀直哉も駅前に買物に行き『雪の日』を、従弟と一緒に鴨屋に赴き『十一月三日午後の事』を書きました。歩くスタイルも人への対応も違いますが家族を大切にしたい両作家の健脚が忍ばれます。



坂上先生の我孫子で開かれた四、五回の講演会(会報一八三号九月参照)では、物静かな語り口で高度な内容ながら、時にユーモアを交えたお話しぶりが人気を得て、すぐに満席となりました。時に参加者に抽選で二本を下さったり、七十歳限定の方に「古希礼賛」の自筆色紙を用

意されたり、気遣いの良さは見事なものでした。近隣の祭にもお酒や金一封をお届け下さったとも伺っています。先生は、出会った人や近隣を大切にすることの誠意に溢れていました。

その坂上先生が、八月に逝去されました。我孫子の坂上フアンの一員として、心から残念に思いました。おちこちの新聞や雑誌で、いくつかの追悼文が掲載されました。その中で中島国彦氏(早稲田大学教授が「坂上弘先生を悼む」(読売新聞二〇二一・八・二四)と題して書かれた一文に感銘を受け心に残っています。中島氏は、坂上先生が近代文学館理事長として文学館を「研究型」だけでなく、多くの文学愛好者に向けられた「貢献型」に発展させたいと願っておられたと記し

ています。また、それは近代文学館の初代館長であった川端康成の「若い人を鼓舞して明日の文学を誘発する」という意向に沿ったものであると知り、その先見性と考察力に共感を得ました。今、我孫子の各団体が高齢化と会員数減少に悩んでいる中で、この坂上先生が示された各分野の愛好者に向けられた「貢献型」の示唆は、とても参考になると思います。

また、坂上先生はいつか高麗村のことを書きたいとおつしやつていたことを知り、興味をそそられました。高麗村は私のふるさと・飯能市の隣で今は日高市、巾着田の彼岸花で有名な所です。戦中熊本で焼け出された坂上少年はお母さまの実家に辿り着き、そこで二年過ごされたことが『田舎うどん』の冒頭に書かれています。同作は高麗村での人々の生活や母とのかかわりを描き、さりげない伯母たちのうどん作りの描写にも健康的な艶めかしさが感じられ、文体の魅力も味わえる佳作で、好きな作品です。また『崖を見る』でも高麗村や秩父の山への愛着を書いています。『寒桜』の中、寺の前の目白と寒桜の情景、その立体的で動きのある描写などにも心惹かれました。歳を重ねた今、先生のサラリーマン物や海外物よりも、こうしたさりげない短編小説の方が心に素直に沁み込みます。町中や駅前で出会った先生の眼差しや微笑みにも通じるような気がします。

今、我家の書棚には、半月型の犬蓼の花赤マンコの描かれた雅趣豊かなお皿が飾ってあります。それは平成九年、先生が川端康成文学賞を受けられた折、越岡禮子さんとお祝いの蘭の花を届けた後に、返礼として送られて来たものです。秋の陽の中で、そのお皿は静かに青磁の光を漂わせています。

先生、またいくつかの作品、読ませていただきます。

坂上弘氏を偲んで

越岡 禮子

「我孫子の文化を守る会」と大変懇意にしていたいた坂上先生が八月十六日に亡くなられました。地元

では白樺派のことは広く知られていますが、長く市内に在住し、この町を愛して下さった坂上先生が純文学の有名な作家であることを多くの市民には知られていないと思います。私も『田園風景』『台所』『眠らんかな』という作品を先生から御恵与いただきながら深く読み込むことなく今は書架に眠ったままです。「内向の世代」といわれ、高い評価の坂上作品ですのに恥ずかしく思います。

私が先生と初めてお目にかかったのは平成五年のことでした。初代会長の兵藤純二氏に誘われ、当時あった市民会館のレストラン「アルカディア」で坂上先生、中井龍二氏等数名で会食をしました。女性は一人居た。ただただ皆様達の文学談義を興味深く拝聴しました。その時の私は坂上先生について余り存じ上げず、静かな穏やかな方、口髭をたくわえた漱石に似ているかな等と思ったことでした。

平成九年、兵藤会長が亡くなられ、その通夜で坂上先生が最後まで一人残って手酌をしていた姿は忘れられません。地元で親しく白樺文学を語り合うことのできる兵藤会長を失い随分と落胆されたのでしょうか。とても寂しそうです。

私はその後、電車の中で隣り合せにお話をする機会が二、三度あり、我孫子市内や都内の史跡散歩などのガイドをしていることとお話すると、当時存命であった地元の文学に詳しい村上正八氏、秋谷半七氏に是非、会いたいとのこと。その後、杉山宮子さん達女流作家の方達と市内の史跡散歩のうちに両家を訪ね、貴重な話を一緒に聞くことができ、私にとっても大収穫でした。

何時ぞや都内のガイドをしている私はその日、慶応大学三田校舎内にいました。偶然、坂上先生にお目にかかり、次週構内にある演説館でご自身が講演することとお誘いがあり、村上智雅子さんと出席することとを約束したのですが都合がつかず欠席してしまいました。先生のお話は元より、国の重要文化財である演説館の内部を見学できる良い機会であったのに残念でなりません。先生は日本芸術院会員であり、幾つもの

著名な文学賞や褒章、勲章を受賞している文学者であるにも拘わらず、どこでも笑顔で声をかけて下さるので何時も恐縮しておりました。

平成二十七年の日経新聞の文化欄の記事に坂上先生の日常生活が書かれていました。友人と共に市内を散歩した時の町の印象や様子。この年、先生がお住いになっているつくし野のマンションの町内役員を務められていることなども紹介され、長い間、住民でありながら自宅周辺についてあまりに関心でなかったものの度、役員になって地域のことを知る機会ともなり有意義であったと書かれていました。役員在任中、二十一年に一度のマンション補修工事の年にあたり何かと多忙であったが、次の二十年後には自分は今何と云うことではないと、その記事が終っていたのは今となっては感慨深く思います。

また平成二十九年暮、三谷和夫氏、竹下賢治氏と共に坂上先生と「ゴビアン」でお茶を戴きながらお話を交わしたのが最後のお別れとなりました。先生のご冥福をお祈りいたします。

追悼 坂上先生

美崎 大洋

坂上先生、ここでは坂上さんと呼ばせて貰います。

坂上さんは我孫子駅から出る千代田線の始発電車です。都内まで通っていた。我孫子駅で私が偶々おみかけした時は、サラリーマンの朝の通勤時間を外した時間帯だったから、既にリコーを退社して慶応大学出版会の社長になっていた頃だったろう。

その日、私が乗ろうとした始発電車の同じ車両に坂上さんが座っているのを見つけた。それも車両の連結器に最も近い隅の方の席に座っている。私は知らぬ顔をして前を通り過ぎようとしたが、坂上さんが私をみとめ、軽く会釈をしたように感じた。私は流石に素通りできず、隣り合わせに座った。同じ大学の後輩でもあり、歳下の私としては当たり障りのない世間話をして暫く間(ま)を繋いだが、坂上さんは私の話を聞いていたかどうか、暫くすると目を瞑って眠っているよ

うに見えた。眠っている坂上さんに話しかけることもできないまま何とも言えない白けた時間が過ぎた。電車は私が降りる北千住駅に近づいた。「さて坂上さんを起こして挨拶するのがいいか?」それとも「気持ちよさそうに眠っている坂上さんを起こさず黙って降りた方がいいか?」一瞬、私は悩んだ。せつなく気持ちよく眠っているのに邪魔をしては申し訳ないとは思ったものの、一方で「挨拶もせず行ってしまう。無礼な奴だ」と思われるのも嫌だったので、「先生、失礼します」と軽く声をかけて腰を上げた。坂上さんは「ああ」と小さく応えた(ように感じた)。坂上さんが書いた一文に次のような下りがある。二足のわらじを履く私は、電車で朝晩二時間くらい電車に乗っている。電車の中には小説のヒントが沢山ある。サラリーマンをやっていると、電車に乗っている時間は貴重である。満員電車で隣にいる人が死んでいて、乗っている人たちがわからなかったという。これも小説のヒントになる「私の行動もいずれ小説のヒントにされるのではないかとその時思った」。

坂上さんは毎年開催される同窓会にはお忙しいにも拘わらず必ず顔を見せてくれた。我孫子市内には沢山の人数が集まれる会場が少ないため、事務局を担当する私としては毎年の会場探しは大変だった。ある時は柏のホテルで開催したり、天王台駅近くの小さなホテルでやったり、ある時はスナックでと、開催場所は一変してはなかった。毎年会場が変更するのも尋常ではなかったが、あるとき坂上さんが「鈴木屋さんでや

『我孫子の文化四十年の歩み』 追加部数の申し込み方法について

連絡方法(メールまたは電話)
メール mss_misaki@yahoo.co.jp

TEL 080-3410-4426
04-7182-0861

お名前(振込者名)を明示の上、
必要部数の金額を下記口座に
お振込みください。

振込先

(金融機関) ゆうちょ銀行
(店名) ゼログハチ(〇五八)
(店番) 058 (預金種目) 普通預金
(口座番号) 4589211
(口座名) ミサキ タイヨウ

ろう」と提案してくれた。「鈴木屋は古くからの料亭で、(いかにも田舎である)我孫子らしいというのがその理由だった。

晩年(二、三年)はお酒を多めに召し上がったのだから、酔って眠っている姿を遅い時間の千代田線車内で屢々お見かけした。お酒はお好きだったと思う。ある時などは改札口を出て、ご自宅と全く反対側の階段を降りて、よろめきながら俯いて歩いていく姿も見た。特別の用事があったのかも知れないが……。

(緊急掲載)

各地の七福神巡り(最終回)

『ぶらぶら敬天愛人』ブログのタイトル

佐々木侑

2019年1月17日(木)
NO464、『東京下町八福神』平成最終年の福を求め八神社の見廻り

平成30年の昨年は、sagaにとっては肩腱板断裂炎症という誠に以て悲惨な傷害を負い、半年間を回復に向けてのリハビリにひたすら務めた年であった。にもかかわらず回復度合いは臍目に見て10%程度であり、両肩を使つての軀を動かす行動が未だに制約される状態にある。本年も引続いての回復に向けて改善努力を続け、あと半年後には全面回復の祝宴を挙げたいと只管願う次第である。

そのような中で、年初毎年いろいろな七福神巡りを行なっていたが、効果も薄く期待外れであったことも鑑み本年は七福神頼み以上に効果が期待されるであろう八福を叶える八神社を巡る見廻りとした。干支も6廻りを数える御歳となる saga には、必ずや効果ありと、八拾縁(円)を握りしめ仏滅ではあるが1月16日、本年初の見廻りを開始した。

この日の行程：出発↓有楽町駅↓月島駅⇒①住吉神社(交通安全)↓人形町駅⇒玄治店跡⇒元吉原跡(末廣神社)⇒②小網神社(強運厄除)⇒西郷隆盛屋敷跡⇒食事処(昼食)⇒③水天宮神社(安産子宝)⇒人形

町駅↓浅草橋駅⇒④第六天神神社(健康長寿)⇒蔵前

1丁目バス停↓浅草七丁目バス停⇒⑤今戸神社(縁結び)⇒千束吉原(吉原神社)⇒⑥驚神社(商売繁盛)⇒⑦小野照崎神社(学問芸能)⇒⑧下谷神社(円満融和)⇒上野駅↓帰着

歩行数：約22,000歩、歩行距離：約14km、歩行時間：約5時間・見学時間を含む

① 住吉神社(交通安全)

獅子頭、八角神輿で有名な佃祭りの住吉神社である。由緒は天正十八年徳川家康の命により大阪佃の人々が江戸へ下る際、田養神社(大阪市西淀川区佃にある神社)の分神霊を奉載し正保三年(1646年)現在の地に遷座した。神社前が諸国の廻船が多く通る湊であったので、海運業者からも信仰を集めた。(下写真右)

② 小網神社(強運厄除)

由緒は文正元年(1466年)悪疫鎮静の神として鎮座。向拝の随所に彫刻が施された社殿・神楽殿は、中央区文化財に登録されている。初詣・五月の大祭・十月の東京銭洗ひ辨財天大祭・十一月の下町の奇祭、



どぶろく祭は、特に賑わう。

参考：…末廣神社

勝運災難除の神。御鎮座は今から400年以上前と伝えられる。吉原が現在の地に移る以前の元吉原(葎原)の総鎮守社として篤く信仰されてきた。御神宝の古文書は中央区の有形文化財に登録されている。日本橋七福神のひとつとして正月は沢山の人が賑わう。(上写真左)

③ 水天宮神社(安産)

東京で一番有名な安産の神様。由緒は文政元年(1818年)久留米藩の時の殿様有馬頼徳(よりのり)公が、領地久留米水天宮の御分社を三田赤羽の有馬藩邸に建てたのが創めである。明治元年有馬邸が青山に移ると共に青山へ、さらに明治五年現在地に移った。(下写真右)

④ 第六天神神社(健康長寿)

第六天神の「総本宮」神社。御宇四十年(110年)日本武尊が、勅命により東国の鎮定に下向の折(この地に国土創成の祖神である皇祖二柱の神を鎮祭し、自ら奉持した白銅の宝鏡を納め国家鎮護の神宮とした。古来より「第六天神宮」と称され公武衆庶の崇敬を受けてきた。明治六年神社と改称した。(下写真中央)



由緒は景行天皇の

⑤ 今戸神社縁結び

浅草名所七福神(福祿寿)も祀る。由緒は後冷泉天皇康平六年(1063年)、京都の石清水八幡を勧請し今戸八幡を創建。昭和十二年七月に白山神社を合祀、今戸神社と改称。應神天皇の御神徳は武運長久と慈愛をこめて子を育てる大愛を本願としているそう。

参考・・・吉原神社

遊郭吉原の移転とともに末廣神社の御祭神が移され祀られたそう。詳細は不詳。

(下写真右)

⑥ 鷺神社(商売繁盛)

西の市御本社・おとりさま。由緒は天日鷺命が開運・開拓・商売繁昌の神様としてこの地に祀られ、後に日本武尊が、戦勝を祈願し、社前の松に熊手をかけて戦勝を祝い奉養された。その日がたまに十一月の酉の日であったので、その日を神祭の日と定めたのが例祭西の市である。

(下写真中央)

⑦ 小野照崎神社(学問芸能)

心の通う小野照さまといわれる。由緒は平安初期の儒学者であり、歌人である小野篁公が御東下の際、御遺跡を留められたことから「上野殿」と尊称され、祀られたのが当社の創始である。小野篁は「令義解」を始め多くの著書を残し、足利学校を創立された。



⑧ 下谷神社(円満融和)

下谷稲荷とも云われ、東京で最も古いお稲荷様。由緒は天平二年(730年)に上野忍ヶ岡に祀られたのが創めと伝えられ、寛永四年寛永寺建立に当り、社地を上野山下に移された。明治五年までは、「下谷稲荷社」と称していた。社殿天



井絵「龍」は横山大観の力作であるそう。

この日の風は冷たい北風であったが、日溜りは暖かく見廻り日和であった。昼食を頂いた人形町「藪そば」はいつもながら気さくに熱燗が呑める高級店でかつ親しめる店である。全ての藪そば店がこうであって欲しいものである。(完)

「各地の七福神巡り」の終りと感想文について

会報180号(令和3年3月)から掲載を始めた佐々木氏の「各地の七福神巡り」は、今回の掲載で終了しました。掲載にあたり同氏から「今回の会報に「各地の七福神巡り」と題してブログから抜粋した記事を臨時に掲載をさせて頂きます。近場の七福神巡りですので、コロナ禍の中でウィルスに負けないよう、散歩がてらに『福』を探し、「ご自分に合った七福神を探しに出かけてはいかがでしょう」とコメントが寄せられていました。この連載記事に七福神の熱心なファンの加賀屋純一氏(会員)から毎回感想が寄せられていました。紙面の都合で今まで掲載できませんでしたが、今回の最終回にあたってまとめて感想文(1回目から4回目まで)を掲載します。

会報180号

『深川七福神巡り』

『日本橋七福神』(映画「麒麟の翼」ロケ地)

七福神巡りは、身近な記事でした。というのも、私の趣味の一部に、歩くことと日本文化に接することが

ありますが、七福神巡りは、その両者を手軽に満たしてくれる恰好な対象でした。

深川七福神は、何度かめぐりまして、その順番も記載通りで行っていました。終わった後の「割烹みやこ」にも何度か行き、思わず笑っていました。

日本橋七福神は、順番が違っていました。「小網神社」をスタートに、人形町駅を左回りに回るように、巡っていました。比較しながら楽しく読ませていただきました。

会報181号

『浅草七福神巡り』

『深川七福神』

今回も七福神巡りで、浅草七福神も思い出しながら読ませていただきました。ただ、浅草七福神は、距離が少々長く移動時間がかかります。ここに行つたときは、最後に矢先神社合羽橋の道具街を通りますので、つい衝動買いをしてしまいます。

深川七福神は、前号とはほぼ逆の順路で歩かれていますが、その中で「北の湖部屋」に寄っています。

実は、私も以前、必ず寄った相撲部屋がありました。それは「大鵬部屋」です(現在は大鵬道場・大鵬部屋)。なにせ「巨人」大鵬! 玉子焼き! でしたので、大鵬親方に逢えるのではないかと期待して寄りました。それだけでなく、大鵬親方の奥さんの芳子さんは、秋田の私の家の近所の旅館の娘で、私より2歳3学年下で、小学校低学年ころまでは、一緒に遊んでいたこともありました(いじめていた?)。深川七福神巡りは必ず、大鵬親方と奥さんに逢えることを期待し部屋の前をうろうろしていました。残念ながら会うことはできませんでしたが、記事を読んでいて、こんなこと思い出しました。

さらに、記事の中に鳥居の分類の話がありました。わたしもひとつ、趣味の一環として、鳥居の類型を調べたことがあります。記事のように伊勢内宮(神宮)を典型とする古形の神明とそれ以外の明神型に大別されますが、その分類では整理がつかず、今では全国8万社ある神社で、神明系、明神系合わせて10

0種以上に分類できるそうです。私は20種ほどしか認識できませんでした。調べに行った中で近場で有名な神社である鹿島神社は、神明系の鹿島型鳥居という分類の典型ですが、2011年の地震で花崗岩の大鳥居が倒壊し、数年前に山形県から切り出した杉材で再建したというコースがありました。香取神社は、面白くて、参道の入口とされる一の鳥居は鹿島型鳥居で、結界を表す大鳥居は明神型、そして奥宮の鳥居は、神宮(内宮)の式年遷宮の際の旧材で造られた典型的な神明型でした。なんでもありの状態でした。このようなことは全国的にもあるようで、これは祀る神と鳥居は、一部以外紐づいていないことにあります。

会報182号

『谷中七福神』

『下総松戸七福神』

今回も土地勘のある七福神めぐりが載っていました。松戸七福神は、令和元年に正月ではありませんが、めぐっています。この七福神は、たぶん昭和63年に松戸市の音頭で、制定されたと思います。お寺はもちろん由緒あるところですが、ちよと奇異に感じたのは、七福神すべてが露天で真新しい石造りだったことです。今はたぶん落ち着いた雰囲気が出てきていると思いますが。

今回私にとつて、七福神めぐりの本命が載りました。谷中七福神です。何回行ったか分からないほどです。というか、昔この不忍通り沿いのほぼ谷中七福神の中に開発センターがあり、2年ほど、ここを担当していました。ここから離れてからも、軽く散策したいと思うときは、たびたび訪れています。

「ここがよいのは、有名な『谷中銀座』『夕焼けだんだん』があり、谷中全体に、昔ながらの民芸品、工芸品の店、お菓子屋、小さな寿司屋、和食屋などが点在し、下町情緒を味わえます。さらに、なぜか銭湯が三軒もあり、徹夜明けなどはよく利用しました。だから、七福神巡りを核に谷中、根津散策で来ていました。そしてここが珍しいのは、東京で、七神七寺の七福神は、確かここだけです。たくさんある東京の七福神の中で、神

社がないのは、他にひとつだけ七神六寺があるだけです。その後変わっていないければ、ですが。(他県にはあるようですが)

会報183号

『新宿山の手七福神』

『佐倉七福神』

ふたつの七福神巡り、私もやはり歩きました。新宿山の七手七福神は、飯田橋神楽坂から記事とは逆回りで回りました。最後の新宿御苑に会社事務所の一つがありましたので、新宿三丁目あたりはよく飲み歩きましたので、回った後はなじみの店で一杯やりました。このコースの印象は、「坂道が多い」でした。

佐倉七福神は、たぶん3度は巡っています。佐倉を歩いたのは、5〜6回はあると思いますが、ほかに訪れたところがあったからです。私は車で行き、佐倉城址公園の駐車場に車を置きそこから出発になるので、記事の順路とはバラバラです。そして必ず一緒に歩くのは、武家屋敷通り(人が少ないと素晴らしい)、そして長嶋茂雄の母校佐倉高校昔は佐倉一高、そして、歴史民俗博物館です。ちなみに千葉県で一番住みたいところは昔から佐倉としていました。

金唐革紙から柳宗悦を想う(1回目)

(註)(一)数字は参考文献、文末参照
大井 正義

柳宗悦を述べるのは、氏が提唱した「民芸の美はこ我孫子で一九一六(大正五)年、李朝の陶磁器を見て着想したことでした(1)」。この理由のみであれば、我孫子の柳を知るほとんどの人は、特に「我孫子市史研究センター」会員と本会会員の多くの皆様は、柳に親しみをもっていることと思います。あるいは多種多様にある民芸品から柳に親しみをもっている人が多くいることと思います。

このようなことが考えられるなかで、金唐革紙(きんからかわかみ・きんからかわし)から柳を述べたのは、民芸品である工芸品の一つに、私が勤めていた日本加

工製紙で製作していた、手漉き和紙でつくられた壁紙といわれていた同紙があったからです。

金唐革紙は、一九〇二(明治三十五)年ごろは東京府管内のみで十二の工場、製造所があり、従業員は記録上の人数で二七二人いました。この壁紙は明治時代に日本政府が国賓や外国の外交官を接待するために建設した鹿鳴館、解体されてしまったが、愛知県大山市の明治村に移設された旧帝国ホテル等に使用されていました。

日本が万国博に参加したのは明治維新前年の一八六七年のパリ万国博からでしたが、薄葉紙等と金唐革紙は来日外国人の評価により一八六二年のロンドン万国博に出展しました。以後の一八七三年のウィーン万国博では、紙部の審査員はこれ等の和紙が参観者に衝撃をあたえたことを公式報告書で報告したので、金唐革紙はイギリスのバッキンガム宮殿、オランダのヘットロ―離宮等に使用されました(2)。

この壁紙の文様はギリシャ神話を起源とするローマ神話のキューピット、花ではバラ、牡丹等、その外では、かつては多くみられた唐草文様、和服に見られる江戸小紋似の文様まで大小様々な文様がありました。この種類からわかるように、この壁紙は通称壁紙と呼ばれていますが、ビルディング等の大きな建物のみに使用されたものではありませんでした。富豪の邸宅では厨子、仏間や仏壇に使用されました。小物では時絵似の小箱、財布、今日では見ることができなくなったキセル筒?と一体となっている携帯用の煙草入れ等、多種多様に使用されていました(3)。

日常頻繁に使用される財布や煙草入れにまでこの壁紙が使用されたのは、丈夫であったからです。そのことは、当社でも戦時中はこの和紙を使用し、ガソリントankを製造していたことでわかります。もちろんこのときは、漏洩防止対策としてラテックスを塗って仕上げました。とはいえ、紙のガソリントankですから、極めて危険でしたが、このことから戦時中は物資がいかに欠乏していたかがわかります。

和紙で作られたガソリントankはほとんど知られて

いませんが、風船爆弾でアメリカ本土を攻撃したことは比較的知られています。当社でも和紙でつくったその風船をつくっていました（気球と述べる説もあります）。この風船は直径十メートルの大きさで、マイナス五十五度の高度一万メートル以上の高空を、高度維持装置を含めて二〇〇キログラムになる爆弾を吊り下げ、新幹線なみの風速に乗って飛ばさなければなりませんでした。しかも五〇〇メートル以上になると気圧が下がり、気球は膨張して水素ガスは微量ですが漏れはじめます。また一万メートル以上の高空は直射日光があたるので、昼夜で温度差が生じます。この厳しい気象条件で、少なくとも二昼夜は飛ばなければなりません（４）。

風船用紙はこの条件を満たすためにコンニャク糊を塗って乾燥させ、十回塗りして仕上げたが、この規格は極めて厳しかったので、女性社員はこの規格に仕上げるのに苦心したことが伝えられていました。この事例からも和紙は丈夫であったことがわかります。戦前戦中は「贅沢は敵だ」のスローガンが唱えられており、さらに戦時中はこのような軍需品をつくったので、金唐革紙の製作はできませんでした。

余談です。当社には、アメリカ軍は風船爆弾を恐怖に感じたので、風船に塗ってある材質を分析したが解明できなかった、との伝承がありました。この伝承について私は出版書のための調査でしたが、このことは解明できませんでした。そのときこの調査でわかったことは、アメリカ軍は風船爆弾に付着していた土砂等から、風船がどこから放球されたのか、場所まで解明できたことが述べられています。この分析力からもアメリカの国力がわかりました。

現在当社の作品が残っているのは、国会議事堂参議院内閣総務室に使用されている壁紙です。上野の不忍池を見下ろせる高台に、三菱財閥の創設者の岩崎弥太郎の邸宅が建っています。この建物は国の重要文化財に指定されており、同邸には金唐革紙が使用されている部屋があるので、いつでもこの紙を見ることが出来ます。

個人の邸宅では青森県北津軽地方の五所川原市に残る、国の重要文化財に指定されている太宰治の生家の天井に使用されています。我孫子市では我孫子市指定文化財に指定されている、井上邸の天井に使用されています。

この壁紙は、戦時中は製作出来ませんでした。戦後になり『経済白書』は「もはや戦後ではない」と記載した一九五六（昭和三十一年）年、当社はこの壁紙の製作を再開しました。

この時の大学卒の初任給は約一万一〇〇〇円、高卒の初任給は約九〇〇〇円でした。壁紙の種類は二〇〇種類以上あったので、当社の出荷価格は坪あたり三万円から三十万円でした。この壁紙は問屋を通して小売りされたので、小売価格はわかりません。この壁紙を壁に貼るときは、「特別な下地作業が行われた」と伝えられているので、仕上げられた壁の価格は、少なくともこの価格の二倍の六万円から六十万円くらいになったと考えられます。

この価格を今日に換算すると、今年の大学卒の初任給は約二十一万円、高卒の初任給は約十七万円なので、この初任給で単純換算すると一平方メートルあたり、三十三万円から三三〇万円になります。

この壁紙がどのように高価なのは手漉き和紙と高価な顔料を使用し、製作者が筆で前述の文様に形取りされた和紙に絵付けをして仕上げた手作り品であったからです。しかし、大正時代から昭和時代になると抄紙機で生産された紙に、機械印刷された、量産された低価格の壁紙が登場してきたので、従来の手法で製作されていた壁紙は衰退し、最後まで製作していた製造所もこの時代に製作を終了しました。

金唐革紙をつくる人々には名人といわれる人たちがいました。同紙はこのよう人々により、優れた製品としてつくられたので作品と述べました。

不思議に思われるかもしれませんが当社の製品は、当時としては近代的な機械を設置した工場で量産されるアート紙でしたので、この壁紙を製作していた最後の製造所、山路壁紙製造所が製作を終了したとき

でも、この壁紙は製作していませんでした。しかし、同製造所は前述のバッキンガム宮殿等に使用された優れた作品を製作していたので、当社は山路壁紙製造所を吸収合併して金唐革紙の製作を継続しました。このことからわかるように、戦前でもこの壁紙を製作していたのは当社一社のみでした。

上司は、この壁紙は戦前でもこのように販売不振であったことは認識していました。戦後に製作を再開した時代はアメリカ文化が普及していたので、日本古来の壁紙の製作を再開しても、販売が期待できないことは戦前以上に認識していたと考えます。それにもかかわらず戦後に製作を開始したのは、戦前にこの壁紙の製作を継承したときと同じく、「日本の伝統文化は絶やしてはならない」との熱い思いで再開したからです。

予想したとおり販売不振であった第一の理由は、この壁紙は超高価格品であったことですが、そのことのみでなく前述の理由により、世相が大きく変わり、この壁紙を使用する建物が多く建てられなくなったこと、人々の装飾品等の好みが変わったこと等により、再開当初から販売不振でした。販売品のほとんどは、歴史的建築物の修理等に使用される製品でしたので販売不振が脱却できませんでした。そのため一九六二（昭和三十一年）年に芸術産業としての金唐革紙の製作を終了しました。当社が金唐革紙の製作を終了したことを、このように述べたのは文末の参考文献（２）です。

上司が、「この壁紙は絶やしてはならない」と考えたのは、出身地の水戸市には常陸地方でつくられていた「羊羹紙」と呼ばれていた壁紙があったからです。この壁紙はイギリス駐日公使ハリー・S・パークスが、一八七一年に英国議会に報告した、『日本紙調査報告書』に記載されていたことでわかるように、優れた伝統工芸品であったからです（２）。

その後、一九八五（昭和六十）年に上田尚氏は金唐紙研究所を設立し、この壁紙の製作を開始しました。前述の旧岩崎邸に使用されている壁紙が劣化したので、この壁の修復工事が実施されました。この工事に使用されたのは氏が製作した壁紙でした。このとき修復見

本に使用された壁紙は、前述の参議院内閣総務室に使用されている壁紙でした。旧岩崎邸では修復記念事業として二〇〇八(平成二十)年十月、「金唐紙展」が開催されました(上田氏は「この壁紙を従来の呼び名と異なり、金唐紙(きんからかみ)」と呼んでいます)。

上田氏はこの功績が認められ、国選定保存技術者に認定されました。この技術者に認定された人は重要文化財の修復工事を行える人、彫金師等のように重要文化財の保存ができる人です。このことから、金唐紙は重要文化財級の作品であることがわかります。当社が利益を考慮せずにこの壁紙の製作を再開したのは、このような理由からです。

JR王子駅近くの飛鳥山公園に「紙の博物館」が開館しています。同館で二〇一四(平成二六)年三月、上田尚氏の作品展「金唐紙展」が開催されました。同展ではこの壁紙が販売されていましたが、絵画で呼ばれている一号サイズではなく、それより小さなガキの大きさで一萬五〇〇〇円でしたので、この壁紙は優れた工芸品であることがわかります。(次号に続く)

参考文献

1. 出川直樹『民芸』新潮社発行 1988年
2. 久米康生「金唐紙と擬革紙」紙の博物館発行 2003年
3. 本皮革技術協会 皮革ハンドブック編集委員会『皮革ハンドブック』樹芸書房発行 2008年
4. 吉野興一『風船爆弾』朝日新聞社発行 2000年
5. 熊倉功夫『民芸の発見』角川書店発行 昭和五十三年
6. バーナード・リーチ、福田陸太郎訳『東と西を超えて』日本経済新聞社発行 昭和五十七年

・知人主宰の新聞「手賀沼通信」に寄稿、 およびその結果(感想文)について報告

美崎 大洋

市内若松在住の知人・新田良昭氏が主宰・発行する「手賀沼通信」(ブログおよび新聞)がある。新聞は、平成10年4月から毎月発行を続け、10月末で284

号を数えた。同紙は定年前後や退職後の生活、老後の楽しみ、健康問題、老人介護や高齢者福祉、政府の高齢者対策、少子化問題など高齢者についてあらゆる角度から身近な問題を取り上げている。

「手賀沼通信」281号(8月末発行)に「嘉納銅像の銅像ができるまで」という題で拙文を掲載させて貰った。その記事についての感想文が寄せられたと後日新田氏より連絡があった。中には身に余るお褒めの言葉もあり、照れ臭いが、内容について報告したい。「手賀沼通信」のブログおよび新聞でインターネット検索可能)

(以下感想文)

我孫子に嘉納治五郎銅像が建立されたとのこと、よかったですね。多分、文京区役所となりの講道館前にある銅像と同じだと思います。

(文京区在住の手賀沼通信読者)

手賀沼通信281号拝受・拝読しました。

気持ちの良いお話で、爽やかな気分になりました。いろいろ「苦労はあったと思いますが、比較的順調に計画が実現したのは会長さんの人間力によるところが大きかったと思いますが、同時に我孫子市民の民度の高さもあつてのことでしょうね。

また、嘉納治五郎という人物が今でも多くの人達に敬愛されていることも寄与しているのでしょうね。明治時代には本当に立派な人物が綺羅星の如く輩出しましたね。それに比べて現在は・・・と思ってしまうが、この銅像が我孫子市の子供達に大きな刺激になることを願っています。

(越谷市在住の手賀沼通信読者)

我孫子は、大学の同級生で結婚式の司会を頼んだ親友の出身地なので何度も行ったことがあります。現在新田さんが住んでますし、高校の同級生が駅前マンションに住んでいるので身近に感じています。でも寡聞にして嘉納治五郎が我孫子に地縁があるとは知らず、お陰様で見分が広まりました。

(武蔵野市在住の手賀沼通信読者)

手賀沼通信、今回は嘉納治五郎銅像ですね。我孫子が縁の地だったのですか。数年前の大河ドラマ「いだてん」でも登場していましたね。昨年4月に建立されたのですね。銅像本体の費用が800万円、・・・だそうです。石膏の原型があつての値段ですから、随分するものですね。(柴又の駅前に「寅さんの銅像」が立っていますが、それもそのくらいの費用がかつたのでしょうか)。台座の「寄付者の銘記」ですが、いろいろ苦労があるんですね。以前、東大阪市に「司馬遼太郎記念館」ができたのですが、大学の仲間が寄付をしたことがあります。後で、記念館に行った時に、彫られた銘を探すのに苦労した覚えがあります。

(横浜市在住の手賀沼通信読者)

記念碑や銅像を作る大変さがよく書けていました。寄付協力者の名前を刻することの大きさが分かります。私も禅の先生の呼びかけで石田梅岩記念碑を京都亀岡の梅岩生家跡に設立することに協力したことがあります。金額は誰がいくらということとは表示せず、寄付の到着順に刻されていました。だれも文句は出なかつたようです。

今回の場合は金額が大きく、朝倉先生の作による銅像です。大変だったと思います。朝倉先生の像は人物も個性まで出る素晴らしいものが多く、大隈重信の像が早稲田にあります。素晴らしい像になっています。我孫子の観光スポットになるものと期待します。

(藤沢市在住の手賀沼通信読者)

私は嘉納治五郎氏と言えば兵庫県出身の柔道家という程度の認識しかありませんでしたが、この投稿を拝読しInternet等で検索して見て教育の面でも国家に大いに貢献した方と知りました。銅像建立は大変なプロジェクトだったでしょうが、反日左翼などの妨害が無くて良かったですね。

(千葉市在住の手賀沼通信読者)

数年前にNHKが放映した「韋駄天」を思い出し、嘉納治五郎を演じた役所広司、未だ鮮明に私の記憶に残っています。我孫子の地に由来する嘉納治五郎の銅像作り、興味深く読みました。

(野田市在住の手賀沼通信読者)

終曲の将門物語り

戸田 七支(かずき)

我等の平将門を論じて十年が過ぎた。一貫として述べて来たことは将門の本拠地(地盤)は我孫子市を中心とした地域であり、その居館と王城は我孫子市中里、日秀にあると言っていることである。論拠とするところは、この地方周辺に濃厚に残る将門伝説である。多くの研究者はそれを認めてはいるものの、何故伝説が残存しているかについて答えていない。筆者はその理由を我孫子こそ将門の本拠地であり、故郷、居住地である。故に多くの伝説が残っていると考えた。例えば将門神社草創の伝説「天慶3年将門が戦没するや、その霊は遺臣等と対岸手賀村明神下より手賀沼を騎馬にて乗り切り、湖畔の岡陵に登り朝日の昇天するを拝した」ということから、村人がその地に一字を奉祀した(昭和58年我孫子市教育委員会発行我孫子の史跡を訪ねる90ページより)と言っているのが神社の起りであるという。現在ではこの伝説は荒唐無稽なものとして削除されている。しかしこれは村人の将門に対する強い願望が残したものと考えられる。例え人魂となつてもこの地へ戻つて来てほしい、即ち将門の居住地であることを物語っている。更に例を挙げよう。成田山新勝寺を忌諱して参詣しない人々、首曲がり地蔵の存在。日秀観音が将門の守り本尊の言い伝え等は全て将門が近くに居住していることを示している。なかでも桔梗御前に関する伝説は意味深い。印西市竹袋に将門の愛妾桔梗御前が住んでいたと言ふ伝説は多くの人が知る処である。しかし「我孫子では桔梗御前にたいする評判は何故か良くない。嫁入りに際して桔梗柄の着物は持ち込まない、桔梗を植えても花は咲かない、桔梗御前は将門を裏切った等々全て否定的、ネガティ

ブなものばかりである。筆者も最近までその理由が分からなかったが最近になって漸く判明した。我孫子は将門の本拠地であり、当然正室、本妻は将門と同居している訳である。正室としては側室の存在は受け入れ難い。かくしてネガティブな伝説が生まれた。将門はどんな口実をもうけて桔梗のもとに通つたものであろうか？三者の人間模様がみてとれる。

こうした伝説の根底に流れるものは将門の本拠地が我孫子でありそこに居住していたと言ふことを示している。しかしながらこれらは論拠が不確実な伝説によるもので史実の積み上げによる結論とは言えない。しかし多くの伝説が同じ結論を示していることは一つの史実と考えてよいのではないかと思う。

伝説に依らない本拠地論を述べてみよう。第一級資料坂東市本「将門記」、84頁に次の記述がある。「其記文に曰く、王城を下総国の亭南に建つべし。兼ねて横橋(ウキハシ)を以て号して京の山崎と為、相馬の郡大井の津を以て京の大津と為(セ)む。」と書かれている。これはまさに将門の居館と王城の所在地を示したものである。3年前、長寿大学の歴史ガイドを頼まれ、湖北地区公民館で打ち合わせをした時、現市史研会長の岡本氏が「このあたりで一番重要な遺跡は相馬郡衛正倉遺跡(旧湖北高校跡)であり、相馬郡の中心地」であると話された。筆者もかねがね気にしていた処である。もしかしてこれが将門記に言う王城ではないかと考えた。将門が関八州を制覇して敗死するまで3ヶ月しかない。身近にあった格好の建物を王城とした。地番は我孫子市中里40番地である。ここが王城とすれば将門亭はその北にあることになる。正に筆者は立つている湖北地区公民館(コホミン)が将門の居館と言ふことになる。地番は我孫子市中里83番地1号である。ここは「於賦」駅に至る官道に面しており将門居館の場所として申し分のない所である。王城跡、居館と言ふ現在に至るも公有地であることに驚きを覚える。さて次は横橋の所在地である。「兼て横橋(ウキハシ)を以て号して京の山崎と為、…」兼てとは訓読みでアワセテと読むのではないだろうか。王城に

付随している施設、舟を繋ぐ橋、船着き場、港と考える。王城(相馬郡衛正倉遺跡)のある岡の下にはその昔港として機能したと思われる入江がある。倉庫に荷物を搬入するには港は無くしてはならない施設である。所在地は我孫子市中里字久保田164番地である。最後は相馬郡大井の津の所在地である。これは言うまでもなく柏市大井、大津川の河口付近の港のことであろう。この付近の人達は数百年の昔より将門記に於ける大井の津とはここであると信じている。近くの山を王城や居館と名付けている。気持ちは理解するが無理であろう。手賀沼対岸にある王城、居館と連結すればその信頼性は不動なものとなる。

話は変わるが偶然にも我孫子市史研究センターから「史遊」2号に山路直充氏の論文「将門記 王城の地下総国の亭南について」が刊行された。一万字を越す論文で、小生のテーマと一致する。博識の広さには及ぶ処ではない。しかし王城と居館、横橋、大井の津の所在地を求めるに当たり、東葛全般に網を広げて該当する場所を求めている。結果として残念ながら一ヶ所も特定することが出来ていない。強いて言えば大井の津が柏市大井、大津川の河口付近ではないかと推定している位である。山路氏は将門の本拠地が我孫子であると云う視点がなく、候補地を広く求め過ぎ結論を得ることが出来なかったのではないか。それとこの場所特有の土地勘が必要と思われる。

最後に将門が筆者にプレゼントしてくれた様なので報告しておきます。それは冒頭で述べた将門神社草創の伝説、主従の霊魂が手賀沼をわたり、岡陵をのぼり朝日を拝んだ。後に村人がそこに祠を建てたと言ふものである。腑に落ちないところがある。朝日を拝するに岡の中腹と言ふのは解せない。しかし良く読んでみると朝日を拝んだのは事実でないことが分かる。伝説では霊魂が朝日を拝んだとなっているが幻の出来ごとである。ではどうして村人があの岡の中腹に祠をたてたのであろうか？筆者はこう考えた。あの場所、将門神社のある所は将門の別邸、客殿のあった処であった。将門の元には各地から色んな人が訪ねて来たに

違いない。一馳走をだし、時には泊めてもてなす。これ等のことを正室のいる中里の居館ですとは考えにくい。本宅と客殿は別々であることが望ましい。今の将門神社がある所は以前将門の客殿があつた処であるとしても不思議ではない。第一風光明媚、客人をもてなすには絶好の場所である。こんなことを述べるのは筆者が初めてであろう。是非は五分と五分、しかし時間と共に是の方が多くなつて来た。そんな折、7月28日文化の会の芦崎氏と神田明神へ参詣に行った。MASAKADO2021展が開催されていたのが目的であつた。会場でリーフレットを購入した。その17ページに浮世絵が掲載されていた。無題(仮題相馬将門)書いた人は歌川芳綱である。描かれた絵をよく見ると将門以下13名の武将が描かれており、背景の景色が将門の客殿(将門神社)そっくりである。将門の目線の先には手賀の海がひろがり、やや右手には富士が書かれており、右手後背には筑波山があり、手賀沼名物の鴨も描かれている。「将門日秀の客殿」と名付けても文句の出ない処である。

将門神社の由来が将門の客殿の跡に村人が一字を奉祀したのが始まりとしたら社格は数段高いものとなる。将門信仰の頂点を極めることとなる。

将門以外に乱の為に亡くなった多くの無実の犠牲者に祈りを捧げなくてはならない。

あびこだより 98号

タマゲル(魂消る)はなし 日本人の靈魂観

萩原 法子

魂消るというのは、体内から魂が消えること。体(カラダ)は、卵のカラというように、カラという容器に魂(タマ)が入って体ができています。その魂は体から出入りが自由なのです。魂が体の中に落ち着いていれば日々の生活は順調ですが、魂のエネルギーが弱まったり、抜け出したりすると人は気力が失せヌケガラとなり、魂が出ていつて無くなると死んでナキガラとなります。こうなったら大変！一体魂はどんな時に抜け

出るのでしょう？それを防ぐ方法はあるのでしょうか。また万一出てしまった魂を呼び戻す方法はあるのでしょうか？

くしやみをするとう魂が出てしまします。特に生まれ「たばかりの赤ちゃんは魂が不安定で、生後7日間はいくしやみをする度に、すぐタマムスビをせねばなりません。タマムスビは糸や紐に結び目をつけることで、タマムスビという習俗です。平清盛の孫・安徳天皇誕生の折の日記にその記述が見えます。何とその同じやり方が明治末まで続いた資料もあります。くしやみと共に魂が出ると考えるのは赤ちゃんだけでなく、成人してからもまた世界中に現在もあります。以前朝日新聞の天声人語に内館牧子氏が「美形にして頭脳明晰の友人のたつた一つの欠点が大声でハクションを放つたあとにチクショーこのヤロー」と必ずいうことだ。と載っています。くしやみ後の呪文は時代によつて違いもあります。どういいう呪文があるのでしょうか。外国の事例も紹介します。

出て行った魂を戻すタマヨビ・タマヨバイは名前と関わります。名前はその人の魂につけられるといわれ、名前を知るといことは昔は求婚を意味しました。ヨバイという悪いイメージを持つ言葉ですが、本来はお互いを呼び合うということで妻問婚の初期の段階に用いられた言葉でした。

新年をあらたまの年というのはなぜ？なぜ正月に必ずお年玉なの？

生まれた直後から7歳までの産育儀礼に餅や石が必ず登場するのはなぜ？

こうしたさまざまな疑問は、全て魂と密接に関わっています。

映像を見ていただきながらお話をさせていただきました。たまげていただくと嬉しいですよ。

萩原法子氏の略歴 東京女子大学文学部史学科卒。文化庁文化審議会専門委員、国際日本文化研究センター研究員、了徳寺大学非常勤講師を歴任後、現在、市川市・野田市・柏市の各文化財保護審議会委員、千葉県県立生涯大学校浅間台校舎講師。楊名時太極拳師範

の資格を有し、指導に努めている。北国分ふれあいボランティア(結いの会)代表、アングレンの会代表、「紫香会」観世流謡曲(会長も務め、幅広く活躍している。

萩原氏は当会が表彰を受けた令和3年度千葉県教育功労者(芸術文化部門・個人の部)(1ページ参照)に選ばれました。

萩原氏の講演会(放談くらぶ)のお知らせ

日時 12月19日(日) 14時〜16時

場所 アビスタ第2学習室(12ページ掲載参照)

テーマ「タマゲル(魂消る)はなし 日本人の靈魂観」

(プロジェクト報告)

百人一首を楽しむ会(番外)

美崎 大洋

今月の歌恋(恋の歌)

(その10)

あはれともいふべき人は 思ほえで

身のいたづらになりぬべきかな

(045)

【現代語訳】

私のことを哀れだと言ってくれそうな人は、他には誰も思い浮かばないまま、きっと私はむなしく死んでいくのに違いないのだなあ。

【語句】

【あはれとも】「あはれは「かわいそう」の意味の感動詞。『き』は当然の意味の助動詞『し』の連体形。【思ほえで】「思ほえ」は「思ほゆ」の未然形で「思い浮かぶ」の意味。【で】は打消の接続助詞で「思い浮かばず」という意味。【身のいたづらに】「はかない」とか「無駄だ」という意味で、「身を無駄にする」↓「死ぬ」ことを意味する。

【なりぬべきかな】「ぬ」は完了の助動詞で、『き』は推量の助動詞、「なってしまうのだろかなあ」という意味。

【作者】

謙徳公(けんとくこう。924〜975)生前の名前を藤原伊尹(ふじわらのこれただ)といい、右大臣師輔(もろすけ)の長男。娘が冷泉天皇の女御となり、花山天皇の母となつたため、晩年は摂政・太政大臣にまで昇進

した。自邸が一条にあったので「一条摂政」と呼ばれる。和歌所の別当として、当時の和歌の名手を集めた梨壺の五人(清原元輔・紀時文・大中臣能宣・源順・坂上望城)を率いて、後撰集の選定に関わった。才色兼備の貴公子だったようだ。建徳公は諡(おくり名)。

関連狂歌

初がつほ くふべき客は不参にて

みのいたづらになりぬべき哉

あまれども 食ふべき物は惜しまれて

身のいやしきに くやみべきかな

あはれともいふべき道はしらずして

身の馬鹿面になりぬべきかな

あはれとも言う人は無し炙(あぶり)りこの

身は焼飯(やきいひ)に胸(むね)そこがるる

あぶりこ【焙り籠・炙り子】①竹や金網で作った目の

のあらい籠(かご)。炭火の上をおおい、衣服を乾かし

たり、暖めるのに用いる。あぶりかご。②餅などを焼く

鉄製の網。

「報告」手賀沼流域フォーラムの

「川巡りと木下の史跡散歩」を運営して

芦崎 敬己

すっかりと晴れ渡り少し夏を思わせる先月十日、「川巡りと木下の史跡散歩」のイベントが実施されました。私は、運営スタッフの一員としてイベント運営の支援をしました。

昨年は、雨天により実施が見送られ二年振りの開催です。昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響で開催が心配されていましたが、八月下旬から新規感染者数が全国的に減少しました。一時期感染の緊張感が緩みましたが、ソーシャルディスタンスや三密などの感染防止対策を実行しながら、運営することになりました。実施日程も、以前から十月十日が晴の特異日として言われていて、数回前から十日に実施日を決めて予定していました。

このイベントは、手賀沼の魅力や環境について知るこ

とにより、自然を守る大切さを広めることを目的に市民団体や流域七市我孫子市・柏市・印西市・白井市・鎌ヶ谷市・松戸市・流山市及び手賀沼水環境保全協議会が手賀沼流域フォーラム実行委員会を構成し、協働して実施しています。実行委員会を構成する「美しい手賀沼を愛する市民の連合会」に参加している当会が、この「川巡りと木下史跡散歩」イベントの企画・運営を行っています。

当日は、木下駅から程近い印西市中央公民館に十二時四十五分に全員が集合しました。参加者は、抽選による一般参加者一八名、スタッフ三名の計二十一名(男性十名、女性十一名)でした。初めに、実行責任者の斉藤清一さんから挨拶があり、参加者名簿を配り、乗船及び史跡散策での注意事項をスタッフから説明しました。続いて、手賀沼流域フォーラム実行委員会の事務局の竹中真里子さんから資料を基に「手賀沼の環境の現状について」と題する環境講和がありました。手賀沼は、昭和三十年代に流域の都市化の影響で生活排水等により水質の悪化が進み、その後北千葉導水事業など様々な対策により、水質は大幅に改善されましたが、水の汚れの程度を示すCOD(化学的酸素要求量)は、基準値の5mg/Lを超える8mg/Lと近年は横ばいで推移しているとのことでした。又、最近では繁殖力の大変強いナガエルノゲイトウやオオバナミズキンバイの特定外来生物(植物)が手賀沼やその周辺に繁殖し、その駆除に多大な費用と労力が掛かっているとのことでした。



景色を楽しみながら手賀沼に繋がる環境の状況を聞きました。又、木下や利根川にまつわる水運の歴史、手賀沼干拓と新田開発の歴史、水害の歴史、木下の産

川巡りは、公民館裏手の渡船場から十名ずつ二艘の屋形船に乗り込み、十三時に出航しました。船上見学は、弁天川、手賀川、下

業発展と文化についてウイットに富んだ話を船頭がしてくれました。中には、外来魚ハクレンが湖水から飛び跳ねて背中に体当たりして、思い出深い体験をした参加者もいました。



船を降りて、皆さんで集合写真を撮り、その後木下の史跡散歩に出掛けました。印西ふるさと案内人協会の二人の方がガイドして、木下駅前、十一面観音立像を祀る上町観音堂、木下万葉公園の木下貝層で話を聞きながら木下の町を散策しました。

国の天然記念物に指定されている木下貝層は、貝塚ではなく貝を含んだ海底の地層が隆起したもので、一部が地層から露頭し、目の前でその様子が観察できました。手賀沼を含むこの辺りが、かつて、約一二万年前に広大な内湾だったことを物語るものとして実感できる場所でした。



史跡散歩はどなたもケガなく、無事に三時過ぎに終了し、木下駅で解散しました。実施後のアンケートで、初めての手賀沼船上見学でしたが、船上から昔の様な沼の鄙びた風景や川辺の方々の生活も偲ぶことが出来、とても楽しい見学会となりました。また、問題化している外来生物を間近で見、手賀沼の抱えている問題点にも目を向ける重要性を感じた次第です、と感想を寄せた方もいました。

第三十一回短歌の会(最終採択の一首)
九月二十八日実施夏の朝少しの幸せ探しつゝ、
利根の河原を歩みゆきたり

飯高 美和子

椅子の色とりどりありて鮮やかに
無観客の競技賑わす

村上 智雅子

度々の水害受けし養子君の
小作の長き日記を読みぬ

三谷 和夫

風呂上り鏡の向こうに裸体あり
肉のたるみは亡き父に似て

美崎 大洋

突然の残暑気遣う贈り物
ほろ苦き味小樽の人よ

芦崎 敬己

あの世とは満月の裏にあるのかも
空に亡夫の 俳の踊つ

伊奈野 道子

おしゃべりを慎めなんてそれこそが
友と集える楽しみなのに

納見 美恵子

ゆるやかにふうわり立ち行く和服の娘
過ぎし日想い深く息すう

佐々木 侑

藍ふかき紫陽花の玉手にとりて
夜来の雨に重く冷たき

大島 光子

文学揭示板

令和四年一月展示作品(文学の広場)

息を吸ひ角帯キュツと絞り上ぐ
新たな年に気を引き締めて

美崎 大洋

一つ家を丸のみにして蔦茂り
窓を残して真緑に染む

藤川 綾乃

夢割り食みし蓮の実ほの甘し
水脈ひく舟にとんぼつき来る

納見 美恵子

りんとしてはるとらのを咲くつくばみち
昭和は遠くなりけるかも

佐々木 侑

新鮮を祝ふと真先に咲きたるや
紅りと椿一輪

飯高 美和子

葉を落とし実の残りたる柿の木を
透かして見ゆる沼牙々と

村上 智雅子

当会の行事予定

□「放談くらぶ」

日時 12月19日(日) 14時〜16時

会場 アビスタ第2学習室

講師 萩原法子氏

演題 「タマゲル魂消る」はなし 日本人の靈魂観

(10ページ「あびこ」より98号参照ください)

◎参加費、会員無料、非会員三〇〇円

申し込みTEL&FAX七一一八五〇六七五 佐々木まで

□プロジェクト「短歌の会」

第三十二回短歌の会

日時 11月23日(火・祭) 13時30分

場所 けやきプラザ10階小会議室

計報 前会長の藤井吉彌氏が7月に永眠されました。

謹んでお悔やみ申し上げます。

「我孫子市文化財保存活用地域計画」の説明会

日時 11月26日(金) 10時

場所 アビスタ第1学習室

参加者募集 参加希望者は080・3410・4426

(美崎まで)

(関連情報)令和2年12月18日、我孫子市文化財保存活用地域計画が文化庁長官より認定されました。

文化財保存活用地域計画とは

「文化財保存活用地域計画は文化財保護法に基づき、次世代に文化財を継承するための目標や具体的な取組を記載し、継続性・一貫性を持って文化財の保存・活用を進めるための基本的な計画である。」

編集後記 千葉県教育功労者に当会が選ばれたこと

は大変名誉のことであり、喜ばしいことだ。その「功労概要」を読むと当会の四十年の蓄積・歴史が認められたといふことが分かる。初代の兵藤純二氏を始め、三谷和夫氏、藤井吉彌氏の歴代の会長と会員が地道に積み上げてきた歴史の重みを感じる。「継続は力なり」だ。同時に今回の表彰の裏に我々の普段の活動を暖かく見守ってくれた人がいたということである。その意味で我孫子市教育委員会文化・スポーツ課のご支援があったことは間違いない。

▲緊急事態宣言が解除された、と同時に感染者が急減した。その理由も専門家によつて分かれるが、共通するのはワクチン接種の浸透だ。宣言中、今まで通りお酒を出す店を探して飲んでいた小生として、確かなエビデンスもなく悪者にされた飲食業の皆さんには同情を禁じ得ない。(美崎)